

Newsletter

映画英語教育学会 九州支部
The Association for Teaching
English through Movies (ATEM)
Kyushu Chapter

第 14 号

2017 (平成 29) 年 5 月 30 日

映画英語教育学会 九州支部事務局 発行

〒814-0193 福岡県福岡市早良区田村 2-15-1
福岡学園 福岡医療短期大学 高瀬文広研究室
TEL: 092-801-0411(福岡歯科大学内線 157)
E-mail: K_office@atem.org
URL: <http://www.atem.org/kyushu/index.html>
編集: 浦田 毅彦・池田 祐子

Contents

Page 1 巻頭言 Page 2, 3 第 18 回支部大会報告 Page 3 2016 年度全国大会発表報告
Page 4 映画ジョッキング Page 4, 5 新事務局長と新運営委員紹介／編集後記

ATEM 九州 2017

映画英語教育学会 九州支部

支部長 高瀬 文広 (福岡医療短期大学)

ATEM 九州支部会員のみならず、2017 年という新しい年度が始まり、大変忙しい時期ではございますが、お変わりありませんでしょうか。

常日頃から当支部運営に関して、ご理解とご協力を賜っておりますことをとても感謝しております。

今回は支部運営に従事されておられる先生方の人事に関する異動があります。支部長である高瀬が今年で支部長の任期が切れるので、来年からは鹿児島女子短期大学の吉村圭副支部長が支部長に就任予定です。また藤山和久事務局長の勤務校が広島地域にある大学に異動になったので、新事務局長として鶴田知嘉香先生(福岡常葉高校)が今年の 4 月より就任します。また運営委員として昨年は石田もとな先生(西南女学院大学)や池田祐子先生(中村学園大学)が参加されましたが、今回新たに深津勇仁先生が運営委員会のメンバーとして参加する予定です。このように九州支部にはやる気のある優秀な先生方が少しずつ加わって、支部活動を大いに盛り上げて頂いております。

昨年は福岡大学で支部大会を開きましたが、今年は大分で開催予定です。大木正明副支部長の勤務校である大分県立芸術文化短期大学に於いて 8 月 26 日(土) 12:30~で行います。温泉で有名な大分での初めての支部大会です。参加だけでなく、ご発表のご連絡もお待ちしております。詳細は決定次第支部のホームページ(<http://www.atem.org/kyushu/>)に掲載しますので、そちらでご確認ください。

支部活動は支部大会だけでなく、会員の交流を行

うために、支部大会後の懇親会の他、年に 2 回懇親会を開いております。毎回 20 名を超える方々が参加され、大盛況です。毎年、2 月頃に新年会、8 月頃に夏季懇親会を開催しておりますので、是非会員だけでなく、お知り合いの方々や学生さんをお連れください。外国人講師の先生方も多く参加されます。これについてもメールや支部のホームページにてお知らせします。

近い将来、全国大会が九州支部にも回ってきます。再度沖縄で開催したいという声も聞きます。今後も皆様のご協力とご理解をお願いしたいと思います。「映画」と「英語」と「教育」という 3 つのキーワードのもとに、今後も多くの方々が ATEM や当支部に関心を持たれ、入会されることを期待しております。以上



第 18 回支部大会報告

昨年は10月29日(土)に、秋好礼子先生が勤務されている福岡大学の8号館に於いて九州支部大会を開催しました。研究発表数は6本。次のような内容でした。(敬称略)

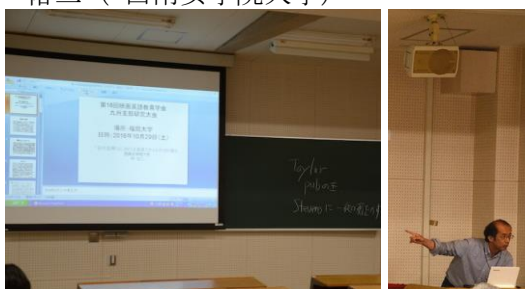
- 1 「阿蘇市におけるコンテンツツーリズムについて」
八尋春海 (西南女学院大学)



- 2 「英語プレゼンテーション力向上の実践報告
～福岡女子大学学術英語コミュニケーションの
クラスを例に～」 深津勇仁 (福岡女子大学)



- 3 「「日の名残り」における言語スタイルの切り替え」
林 裕二 (西南女学院大学)



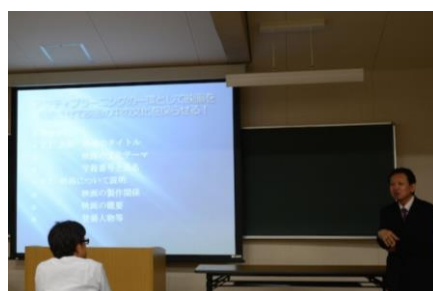
- 4 「Charlie and the Chocolate Factory」: Songs
and English Language Teaching」
Haynes David (Fukuoka Dental College)
Nikandrov Nikolai
(Fukuoka College of Health Sciences)



- 5 「映画「アメリカン・グラフィティ」の舞台：ア
メリカ・カリフォルニア州・モデスト訪問について」
篠原一英 (福岡県立久留米高等学校)



- 6 「映画を利用した異文化理解論のアクティブラー
ニングについて」 高瀬文広 (福岡医療短期大学)



また、シンポジウムとして、「教室で聞きたいディズニー映画の名曲」をテーマに次の3名の先生方によって発表がありました。

- 1) 「“A Whole New World” を題材とした事例」
石田もとな (西南女学院大学)



- 2) 「「ハクナマタタ」からシェイクスピアへ」
吉村 圭 (鹿児島女子短期大学)



3) 「雪の女王と”Let it go”」
村田希巳子(西南女学院大学)



業者展示を、研究社、オックスフォード・ユニバーシティ・プレス、九州三菱自動車、株式会社キャンパスサポート西南などにして頂きました。そして業者発表として、オックスフォード・ユニバーシティ・プレスの大橋さんがわざわざ大阪から来福して「Viewing skills - 映像を用いた英語学習方法」という題で発表をされました。



今年の支部大会ですが、今年は大木正明副支部長の勤務校である大分県立芸術文化短期大学に於いて8月26日(土)12:30~に開催予定です。研究発表の申し込みは7月中にお願いします。

会員の皆様のご発表や参加をお待ちしております。どうぞお知り合いの方や学生さんにもお声かけをして頂き、多くの方が支部大会に参加されるのを楽しみにしております。以上

(高瀬 文広)

2016 年度全国大会
ワークショップ実施報告

2016年7月9日(土)

於：早稲田大学

ワークショップタイトル：

映画のショートクリップ活用法

—九州支部オタクコンテストをヒントに—

早稲田大学で行われた全国大会では、支部大会名物のオタクコンテストをテーマに、石田もとな先生(西南女学院大学)、藤山和久先生(熊本高等専門学校)、吉村圭(鹿児島女子短期大学)の3名でワークショップを行った。

まず、吉村がオタクコンテストの実演として、支部大会で実施した「過去問」から8問を出題した。支部大会では例年「難しすぎる」と苦情が出がちな当企画であるが、参加者の正答率は高く、全国大会の<映画オタク度>の高さが感じられた。

次に石田先生が『ホームアローン』を用いた専門学校の授業での実施例を示した。中でも劇中ドラマである「Angels with Filthy Souls」に出てくる「いくらだ？」(How much do I owe you?)という表現に焦点を当て、動詞“owe”の有用性や関連表現、授業時の学生の反応などについての発表を行った。

最後に藤山先生が、高専の英語研究部の合宿で行った映画音楽を用いたクイズを実施した。『タイタニック』や『スターウォーズ』など今の学生にも馴染み深い映画音楽が出題され、学生のモチベーションアップに繋がっている様子が窺われた。

(吉村 圭)



◆◆映画ショッキング vol. 13◆◆

～名作になり損ねた迷作『クロスロード』～

おとなしく見られがちな私だが、学生時代はハードロックバンドを組み、毎日のようにギターを振り回しながら騒々しい音楽を演奏していた。そんな経緯もあって、ギターやバンド、ロックをテーマにした映画にはついつい手がのびてしまう。今回はその中でも、私がある意味忘れられない映画である『クロスロード』(1987)を紹介したい。

この映画についてはどれくらい知名度があるのか皆目見当がつかないのだが、少なくとも「何コレ!？」映画としてごく一部のロックファンの間では語り草の作品だ。物語は、ユージン少年がブルースギターに魅了され、伝説のブルースマンであるウィリーを師事し、かつてウィリーがその才能を得るために悪魔と取引をしたという十字路(クロスロード)を目指してともに旅に出るというものだ。その旅の中で少年は恋や失望を経験し心に傷を負いながら、人間としてもブルースプレーヤーとしても成長していく。ブルースミュージックのように深く、とても深みのある映画だといえる。と、ここまでを見るとどこが「何コレ!？」なのかと思われたかもしれないが、その通り。この映画はほぼ完璧な名作なのだ。ただし、最後さえなければ、の話だが。

～以下ネタバレ注意～

問題は2人が目的の十字路にたどり着いたところで起こる。十字路にはウィリーが取引をした悪魔が現れるのだが、映画はそこから急転直下、衝撃的な「何コレ!？」展開に突入し、わけがわからないままエンディングを迎えることとなるのだ。というのも、そこには悪魔の手下であるピチピチのレザーパンツを履いた超絶技巧派ヘビメタギタリストが現れ、「決闘」の名目でブルースとはほど遠いヘビメタのギターフレーズをピロピロと奏ではじめるのだ。その時点でちょっとよく意味がわからないのだが、さらに輪をかけてわからないのが、ユージン少年がそれに対してヘビメタ風ギターで応戦をはじめる点だ。これまで少年がこだわり続けたブルースはどこへやら、最後の最後にして突然のヘビメタギターバトル。やはりヘビメタは悪魔の音楽ということなのか。何コレ!？

その勝負の行方はぜひごらんになって確かめていただきたいところだが、正直そんなことはもはやどうでもいような気がする。作り手の迷走のせいで最後の最後で名作になり損ねたバカ映画。いったい彼らが何を考えているのかさっぱりわからないが、それゆえにショッキングで印象深く、そしてなんだかんだで好きな作品だ。

(吉村 圭)

高瀬先生の巻頭言にもありましたように、支部運営に新しい風が吹いています。新しい役を務められる4人の先生方の自己紹介を頂戴しました。(敬称略)

新事務局長

鶴田 知嘉香 (福岡常葉高校)

今年度より事務局長を務めることとなりました鶴田です。まだ若いという年齢を随分過ぎているのに、学会にはろくに貢献できていないことに気づいたこともあり、自分で事務局長に手を挙げました。思い返せば、この映画英語教育学会に仲間入りしてから早12年です。高校時代の恩師であり、教育実習の指導教官でもある高瀬先生からのお誘いで一緒に研究発表や執筆活動をさせていただき、今の自分があるのだと改めて感じているところです。また様々なご縁に恵まれ、2年前から検定教科書の著者として執筆活動に勤しんでいます(こちらはまだまだ終わりが見えませんが…)。勤務校の仕事も軌道に乗り、今年はシンポジウムでの発表も考えているところです。久しぶりに学会活動にハマってみようかと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

新運営委員

池田 祐子 (中村学園大学)



この度、映画英語教育学会九州支部に入会した池田と申します。入会と同時にニューズレター副編集長の任を受けました。専門は19世紀の英文学で、オスカー・ワイルドを研究しております。現在、中村学園大学で流通科学部の英語を担当していますが、全学対象の共通教養科目「外国文学」を一コマ持っており、専門を問わず文学作品に興味のある学生を相手に講義をし、学生のフィードバックを読んでいる時間が楽しみでもあります。この「外国文学」ではワイルドやキャロルの作品を扱っており、学生の理解を深めるための補助教材として映画も活用しています。原作と映画における翻案の比較や、教材としての映画の効果的な活用も新たに研究していきたいと思い、ATEMに入会いたしました。皆様どうぞよろしくお願いいたします

新運営委員

石田 もとな (西南女学院大学)



オリンピック航空客室乗務員、日本航空地上職員 (V. I. P 待合室責任者) を経験後、専門学校及び大学で教鞭をとっております。

現在、麻生医療福祉専門学校、麻生外語観光&製菓専門学校、中村国際ホテル専門学校、西南女学院大学等に勤務しており、英語が嫌い、苦手という学生も楽しめる映画を使った楽しい英語の授業を心がけております。

よろしくお願いいたします。

新運営委員

深津 勇仁 (福岡女子大学)



今年度より英語映画教育学会九州支部で運営委員にご指名を頂きました、深津 勇仁です。専門は米国文化論と英語教育学です。現在は、特に米国西部劇作品を分析対象として米国の善悪二元的描写とマイノリティー表象について研究をしています。また、英語教育では映画やメディアを教材とした授業で受講生のモチベーションの研究も行っております。今後は文化論と英語教育の両方を軸に、研究を進めてゆきたいと考えております。

経歴としましては、大学卒業後に関西の高校で計三年間高校英語講師を勤めたあと、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科にて国際関係学の修士号を取得いたしました。またその間、米国ジョージワシントン大学大学院エリオットスクールに半年程度交換留学生として派遣されておりました。大学院卒業後は、日本経済大学経済学部商学科にて二年間嘱託講師を勤めまして、現在は福岡女子大学、並びに西南学院大学にて全学共通英語の講師をしております。

今後は、2017年4月より慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科の博士後期課程に入学し、博士論文に取り組むことになっております。ATEMでの研究発表や論文投稿などの機会を活用して、研鑽をつめればと期待しております。また、運営委員としましても九州支部の発展に少しでも貢献できれば考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

前回より電子化したニューズレターでしたが、なかなか次をお届けできず、皆様には大変ご迷惑をおかけしました。支部大会の報告は、私が執筆することが続き、マンネリ化していた感がありましたが、今回、高瀬先生に執筆いただき、ほっとしています。また、掲載原稿の案も出していただき、さらに運営委員の先生方も快く執筆を引き受けてくださり大変感謝しております。次の支部大会は久々に福岡を離れ、大分開催。またまた皆様のご協力のもと新鮮な切り口の内容をお届けできればと思います。

(浦田 毅彦)